第３学年　道徳指導案

１　題　材　　　たがいに理解しあって（道徳・学級活動・音楽）

２　題材の目標

　・様々な人が共に生きていることを知り、考えや思いを知ろうとすることができる。

　・相手に思いを寄せながら活動しようという意欲をもつことができる。

３　子どもと題材をつなぐ構想

（１）子どもの実態

　　　本学級の児童は、素直で明るくのびのびとすごしている子が多い。決まったグループなく関わり合いができ、人懐っこい。女子の多くは、友達の様子の変化から進んで「大丈夫？」「どうしたの？」と声をかけるなど穏やかに人と関われる。男子の多くは、自己主張を強くするようになり、自分の気の向くままに行動や発言をし、まだ、相手や周りの思いが分からない子がいる。分かっていても友達といることで善悪の判断が鈍り行動してしまうこともある。

　　　ギャングエイジと呼ばれ、自我が発達し自己主張が増え意思表示をするようになると言われるこの時期にこそ、互いに理解し合うことの学習で人との関わり方や自分の考えに幅を広げられるのではないかと期待している。

（２）題材のよさ

　学芸会に向けて、本題材の教材を使って様々な人の思いを考えていくことは、自我が発達している彼らの成長するチャンスの時であり意味のあるものだと考えた。自分とは違う老人や障がい者の思いを考えたり、聞いたり感じたりすることで、考えの幅を広げられるだろう。そこから、身近な友達の思いにつなげていく。最後には、友達にも違いがあることを理解し、心をつなげていくことがどういうことかを考える。

本題材には軟骨無形成症のゲストティーチャーを招く。生き方や考え方を聞いたり、触れ合ったりする中で、人間には得意や不得意があり、その人の考えがあることに気づくことができるだろう。ゲストティーチャーはとても明るく元気で家庭を持ち子育てをしながら仕事もしている。子どもたちの持つイメージと考え方を覆すことができるのではないかと考える。前向きに楽しく生きているゲストティーチャーに触れ、相手に思いを寄せるとはどういうことか考え、仲間との関わり合いの指針になるだろうと考える。

（３）教師の思い・願い

　　　２学期の最大の行事である学芸会に向けて、協力をしていくためには、助け合わなければいけない。得意な子不得意な子それぞれが教えたり聞いたりする雰囲気を作り出したい。題材を通して、クラスで互いに認め、愛をもって、関われるようになってほしい。学級で存在意義を感じられる認め合いをしたい。心をつなげることが人の頑張るエネルギーになることを感じ取ってほしい。学芸会で「できた」「できるようになった」という達成感を感じ、心をつなげることの楽しさや喜びを感じさせたい。そのために、様々な角度から人の気持ちを知る教材を準備する。

４　題材構想

1. 思いやりってなんだろう「心と心のあく手」「当番」（道徳３時間）
2. 私の生き方（道徳１時間）【ゲストティーチャー】
3. 本当の友達って何だろう「ルールを変えろって」（道徳２時間）【本時（２/２）】
4. 心と心をつなげよう「萩野公介」（道徳１時間）
5. 学芸会練習「すてきな友達」（学活２時間）
6. 学芸会合奏練習（音楽６時間）
7. 学芸会『大ぼうけんの旅！そして、見つけたものは…』（行事２時間）

５ 本時の学習（本時　６／７）

（１）目　　標

　　・本当の友達とは何かを考えることができたか。

　　Ｃ－（11）規則の尊重　　　Ｃ－（12）公正、公平、社会正義

Ｂ－（６）親切、思いやり　Ｂ－（９）友情、信頼

（２）資　　料

　　「ルールを変えろって」＊『資料を生かしたジレンマ授業の方法』明治図書

（３）準　　備　　　ホワイトボード、登場人物のイラスト、ワークシート、ふり返り用紙

（４）学習過程

|  |  |
| --- | --- |
| 学 　習 　活 　動 | ･留意点 ◇評価　※アクティブラーニング |
| ○話の流れを確認する。○前時で意見の変わった人の発表・ルールを変える→変えない　人数が減ったら、かんけりができない。・ルールを変えない→変える　こうたがせっかく入ってくれたから、こうたに合わせてあげた方がいい。自分なら、楽しく遊ぶためには、ルールを変えるのか？ルールを変えないのか？○話し合い、考えを深める。・ルールを変える　つまらなくなってきたから、みんなが楽しむためには、変えた方がいい。こうたもその方がいい。・ルールを変えないこうたもルールは知っている。途中で変えることはルール違反だと思う。・その他みんなが納得するルールを提案する。こうたにどうしたいのか聞いてみる。自分ならどうするだろうか。○最終的な判断・理由づけをワークシートに記入する。○ふり返り「今日のじゅぎょうで大切だと思ったこと」をワークシートに記入する。 | ・座席は前時の「ルールを変える」と「ルールを変えない」の意見で分ける。その後は、赤白帽子で意思表示をさせる。・イラストを用いて、相関図を作りながら、流れを共通理解させる。・なぜ変わったのか、理由まで発表させる。・机の上は、何も置かないように指示を出す。◇自分に置き換えて、判断することができたか。・様々な価値で意見を交換させるために、話し合い隊形で相互指名にする。・それぞれの意見の判断・理由を板書していく。・十分に時間を取らせて、意見交換をできるようにする。※価値として大切にしているものを明確にしていくために、こうたのためにルールを変えることに大きく意見が傾いた時には、「こうたはルールを変えたら喜ぶのだろうか。」と問いかける。明男・ひろしのためにルールを変えないことに意見が大きく傾いたら「決め手となった大事にしたいことは何だろう」と問いかける。・「今日の学びのタイトル」を自分で考えさせる。・時間に余裕があれば、大切だと思ったことを数人発表させる。◇自分の大切にしている価値を考えることができたか。 |

（５）評　　価

　・迷っている主人公の立場を自分に置き換え、ディスカッションを通して、最終的に本当の友達とは何かの判断・価値づけができたか。　　　　　　　　（発言、ワークシート、ふり返り用紙より）